



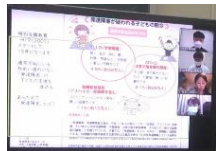
セルクルきほく 第10号

～紀北支援だより～

和歌山県立紀北支援学校
教育支援部 2021.10月

セルクルとは、フランス語で「輪」を意味します。学校や地域がつながることで、大きな輪となり連携を深めていくことができればと考えています。

令和3年度セルクルきほく学習会を開催しました！



令和3年8月19日(木)10:00～12:00、本校主催の学習会「セルクルきほく学習会」を開催しました。昨年度は、新型コロナウイルスのため、開催を控えましたが、今年度はZoomによるオンラインで実施しました。地域の幼稚園、保育所、こども園、小学校、中学校の先生方、教育委員会の指導主事等19名と本校教職員20名の計39名の参加でした。ご参加いただいた先生方、ありがとうございました！

① 講演 「子どもの困った行動を支援し、学びの多い授業を作る

ー明日から実践できる支援方法を学ぶー

講師：兵庫教育大学（博士課程） 原 康行 先生



■子どもたちの困った行動を子どもたちのせいにはしない

①子どもに「変われ」という前に、教師が「支援方法」を変える。

・子どもは一人一人が違う。多様であることが基本。

・「特別なことは不平等。(特別扱い)」「みんなと一緒にのことだけです。」… ←見直しが必要！

②「モノ」、「環境」を工夫する。←子供だけにアプローチしても変わらない。

・ヒトの行動は、取り巻く「物」や「状況」に大きく影響を受けている。

インクルーシブ教育・学びの多様性・
共生社会の形成・合理的配慮・
Neurodiversity…

スイッチを切り分ける時、
等分ではなく、家族の好みや
体調に合わせた大きさが必要。
支援も同じです！

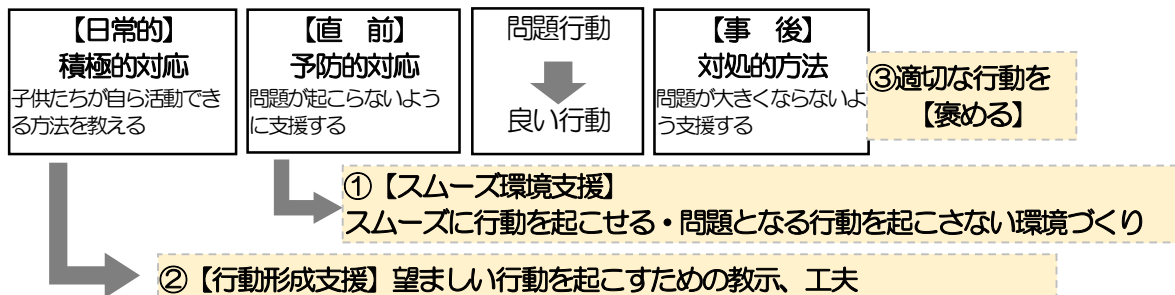


■支援の工夫は行動の「前」に行く

・事後の対処的方法では、できることは限られる。支援が行き詰まる。

・子どもは、適切な行動ができない・わからない、という不安いっぱいの中にいる。

→ ①変わりやすい環境を作る ②本人が「分かるように」「できるように」教える ③適切な行動を褒める



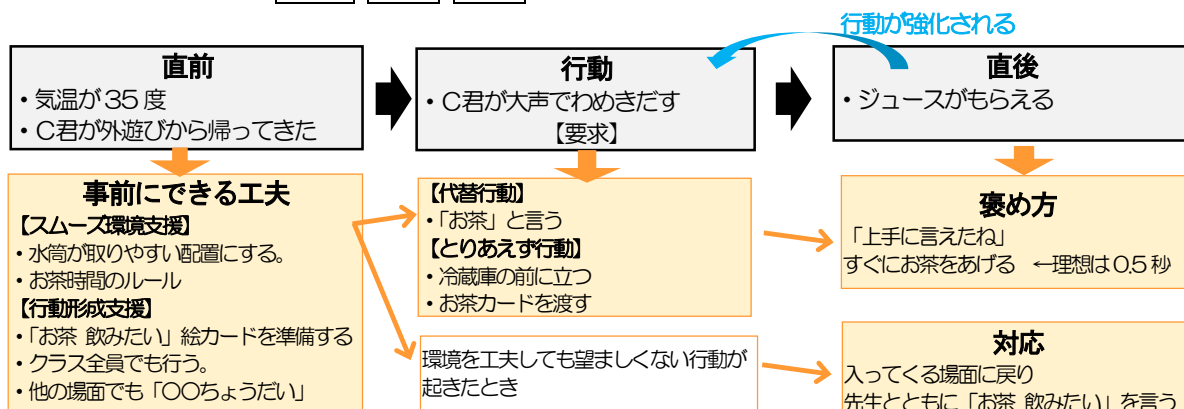
■解決の糸口は、困った行動の「後」

・行動の後の出来事が、行動を生起・維持させている。

・その行動が、4つの機能「要求、注目、逃避、回避、感覚刺激」のどれかを見出し、機能に対応した支援が大事。

→ トラブル解決方法 … 行動を、**A直前**・**B行動**・**C直後**の枠に整理して、分析する。

例



② 実践報告「生徒の強みを活かした自立活動の取組」

「課題を自分のものとして捉え、克服していこうとする態度を育てる」

報告者：本校中学部 教諭 島田 有規



- 集中・記憶が苦手。→状況を理解できないことも。
- 他人の気持ちの理解が難しいため、自分の話を一方的にしがち。場面に応じた言葉遣いや声の大きさ等が難しいことも。人と話すのは好き。
- 思い通りにならないと怒る。気持ちを表現しにくい。
- 工作、だじゃれが得意。

教室での SST が
いいかなあ。
と思っていたが...

指導目標

- ①円滑な人とのコミュニケーションに必要なルールを知る。
- ②困った時は理由を伝え、援助を求めることができる。

行き先盤、ドアストッパー、カウ
セリングルームの看板 等の製作



新しい校長先生との出会い！
・優しい、見慣れない先生。
・工作の注文があった。



自立活動の授業として

M 工房の取組

教員から注文を受け、ニーズに応じた製品を製作し、届ける。

- 「自分に何がどの程度できるか」の理解...自己効力感の理解・獲得→肯定的な自己理解
- 自分にとっては少し難しい注文にも挑む...自己コントロール、コミュニケーション力等
- 注文する人に対する配慮の意識...他者理解
- サイズの検討・設置場所の交渉...コミュニケーション力

取組の
ポイント

- 強みを活かす
- 実際の生活とつながった学習活動を設定...体験から自ら課題を振り返る。
- 訓練ではなく、教師ならではの指導を計画する。
- 生徒と教師の関係...教師は安全、安心基地となり、学級以外で学ぶための探索基地として精神的な自立を促すことが大切。

指導計画の見直し

③ 質問コーナー（一部紹介）

Q1 学級に6名在籍しており、じっくり見ている余裕がなく、放課後に思い悩んでいる現状です。

A1 (原先生) 支援学級の先生は複数人見るので大変です。紀北支援学校の教育相談等を活用して、分析してみてもいいでしょうか。全ての行動を分析するのは難しいので、1つの行動に絞って分析しながら、解決の糸口、考え方を理解していくことが大切です。



Q2 学校では問題となる行動の無視やタイムアウトは難しい。どうすればいいのでしょうか。

A2 (原先生) 学校現場では無視しきれません。事後の対応として、最小限に本人や友達が怪我をしないようにしますが、それでは正しいことを教えることにつながりにくいし、学ぶ機会が少ないです。
大切なのは、紀北の実践報告のように、事前に強みを活かして学ぶ機会を作ることです。事前の支援が大事です。

実施後のアンケートより(抜粋)

- ・子ども達の困った行動を子ども達のせいにはしない!!まず大人が支援方法を変える事が大切!!ということが印象に残りました。
- ・行動前と後を意識しながら、自分たちで解決方法や手立てを考えていきたいと思いました。
- ・子どもの得意なことから自尊心を育て、苦手なことに対しても向かっていけるように、支援していく大切さを改めて感じました。
- ・型にはまった学びではなく、学びの多様性を考えてみたいと思います。
- ・子どもたちの行動の裏にどのような意味があるのか考える「くせ」をつけられたらいいなと思います。頑張ります!



教育相談・研修協力へのご希望があれば、
まずはお電話ください。

和歌山県立紀北支援学校 教育支援部

TEL: 073-479-1356

メール: kihoku-shien@wakayama-c.ed.jp

ホームページ: 紀北支援学校で検索

兵庫教育大学(博士課程)
原康行先生への校内研修等
のご依頼は、
d18254h@hyougo-u.ac.jp
まで。